

広報

# わかさ

Public-relations Wakasa

9

2009  
No. 53

## ろくさいねんぶつ 六斎念佛（三宅・瓜生）

かね  
鉦を叩いて唱える念佛にあわせて、子  
どもたちが手に持った太鼓を打ちながら  
踊ります。700 年以上続くお盆の行事で、  
国の選択無形民俗文化財です。（写真＝三宅）



# 川 と と も に

宅地化や産業の発展に伴う水質の悪化など河川環境の変化は、動植物の生息場所や種類の減少など、大きな影響を及ぼすとともに、わたしたちを川から遠ざけ、川と地域の結びつきを希薄なものにしてしまいました。

身近にありながら遠い存在となった川。格好の遊び場であったのに、ゴミが散乱し、汚れが目立つ川や湖が各地に見られます。

それでも、下水道の整備や排水規制などの水質保全活動が進み、川や湖の汚れは、一時期に比べると改善されました。

そして、たくさんの水辺がその魅力を取り戻しつつありますが、まだ道半ば、共有の財産を未来に良好な状態で引き継いでいくには、何を考え、どのような取り組みが必要なのでしょうか。



## 川とは

かせん  
川、河川とは、水が地表を流れるくぼみである河道をいいます。

河道は、恒久的な構造ではなく、水の作用、土壌の浸食、削られた土砂の運搬、流れが緩やかな部分への土砂の堆積などによって数年から数十年単位で形を変える場合があります。

川の水の源は、雨や雪等の降水ですが、降水が直接川に流れ込む以外に、いったん湖沼を形成するほか、寒冷気候では万年雪や氷河を形成したり、一端地中にしみ込み地下水や湧水として流れ込む場合があります。

若狭町では1級河川の北川、2級河川のはす川や三方湖などの川・湖があり、総延長は88kmに達しています。

## 飲み水になる川の水

若狭町の水道は、その水源を地下水と河川水に頼っています。その内訳は、地下水で約1,900件(34%)、河川水で約3,700件(66%)をまかなっています。

これらの水源である山の水、川の水を良好な状態で飲み続けるためには、わたしたちが大気や川、土や森を汚すことなく大切に守っていかなければなりません。

なぜなら、空気中の水蒸気は雨や雪となり、森を潤し、川や湖に流れ、土にしみ込み、地下にたくわえられるなどして、人や動物がそれを利用する—この動きは繰り返し、めぐりめぐっているからなのです。

## 農業・工業用水に使われる川の水

若狭町の水田面積は、約1,900ha。わたしたちが住む住宅用地の約3~4倍です。

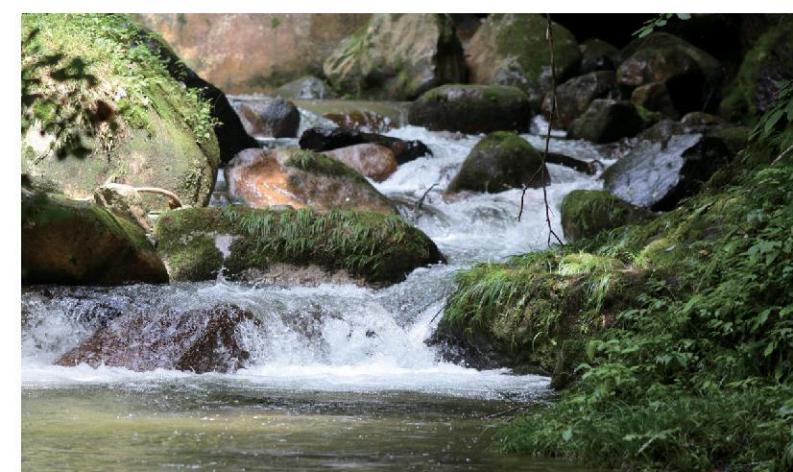
この広大な土地に、溪流の水や下流の川の水をくみ上げ、大量の川の水を配水しています。

わたしたちが、おいしいお米を食べができるのも森や川そのものが育んだ清流のおかげなのです。

また、工場では製造の過程で、部品などを洗浄するのに大量の水を使っています。

若狭町中核工業団地では、1日平均125万ℓの大量の水を必要としています。

この水もまた、川に流れる水をくみ上げ使っているのです。





## 多自然川づくり

川は古くからわたしたちの暮らしや経済、産業を支えるとともに生物の生息場所として、また、心の故郷として多くの恩恵を地域の人々に与えてきました。

一方、時には、洪水という猛威によって大きな被害をもたらしました。

多様な側面を持つ川に対して、昭和の時代では度重なる大水害や水不足を解消するため、治水や利水に重点をおいた川づくりが進められました。

その結果、現在の川の多くは、治水のために側面や川床面をコンクリートで固められることとなり、動植物の生息場を減少させるとともに、自然の浄化能力を低下させることによって、水質悪化を招いています。

また、外的な汚染原因として、車や道路の粉塵・ほこり、生活ゴミの散乱や不法投棄がさらに水質や景観を悪化させています。

これらのことから、川は危険で無機質なものとなり人々は川から離れていき、気に留めなくなったり、関心が薄れ水質悪化を助長することになっています。



横浜市の和泉川 改修前

このままでは、川が持つ豊かな自然の恩恵を、将来の世代に引き継ぐことができなくなるため、水辺で生活する生き物たちが生活しやすく繁殖できる効果的な解決策が必要となっています。

川の生物の生活を正しく理解し、洪水や日常の川をよく把握し、従来の考え方とにらわれず、知恵を出し合って、その現場に応じた工夫をすれば、効果的で経済的な改善策を見出せることがわかつてきました。

また、住民の高まる環境意識を背景に、国においても河川の整備にあたっては「多自然川づくり」に取り組むこととし、「治水」「利水」を目的としていた河川法を改正し、「環境」という文言が加えられ洪水対策の際には環境に配慮した河川改修が進められることになりました。

### ～多自然川づくり～

- ・川全体の自然の営みを視野に入れる
- ・地域の暮らしや歴史・文化との調和に配慮する
- ・川が本来持っている生物の生息環境と多様な景観を保全、創出する

ここに、横浜市和泉川での”多自然川づくり”的取り組みがあります。

以前は、矢板で囲まれた異臭が漂うドブ川でした。洪水対策だけであれば、コンクリートで固められた川になります。そこで、地形にあわせ、川の護岸をなくし水辺を広くしたり、川を蛇行させながら治水対策を施すなど、自然に近い川を再現しました。

工事を終えてたった1年、アユが見られるほど水質環境が改善。自然と生き物が戻ってきました。それに呼応するかのように、地域のコミュニケーションが生まれ、河川清掃活動も盛んになり、今では、川で遊ぶ子どもたちの笑顔があふれています。



多自然川づくり改修後



川遊びをする子どもたち（はす川）

さらに、それほど大規模でなくても効果的な改善方法をとる取り組みも山口県で行われています。

重要なことは、広い視点や生き物の行動、現場の地形などを考慮した大掛かりな工事ではなく、地味な工事であっても本質的な考え方で取り組むということです。

1箇所へ全力で、時間と労力と多くのお金をかけても長い川では、努力の割には効果が頭打ちとなってしまいます。

それよりも、小規模でありながらも効果が最も効率的に發揮できる改善を、分散して実施する方が、川全体の生態系をより早く豊かにすることができます。

さらに、優先順位に応じて力の入れ具合を加減したり、川に仕掛けをし、あとは増水時に川を形作らせるなど、自然のエネルギーを利用すると効率はよくなります。



川の生き物観察をする子どもたち（今古川）



## わたしたちに託された使命

流域に降った雨はその特性に応じて流れ出し、川に集まります。

生態系は離れているより連続している方がよく、川、水路、池、山などが線や面として流域の中でつながることにより生態系が豊かになります。

さらに、人の暮らしや歴史、文化、行政においても川を利用して、古くから流域単位で強い絆がありました。

流域というシステムの中で物事を考え、流域を見据えた洪水対策をすることや生態系の連続性を分断する障害物を作らないこと、支川とのつながりを大事にすること、山と川との連続性を確保することなどさまざまなことに気を配り、川とともに生きることを考えなければなりません。

どうしたら、川を水と緑の潤い空間にできるのか？

どうしたら、かけがえのない川の恵みを次の世代に引き継げるのか？

その答えは、水辺に憩える川づくりーそれは単に治水を目的にした河川改修にとどまらず、川遊びの姿があちこちで見られるような川づくり、それがかなえば、川が本来の姿を取り戻したことでしょう。

# まちの話題

WAKASA TOWN NEWS

## まちどおしい！新しい保育園

梅の里保育園 新園舎起工式（7/17）

現在の園舎は昭和54年に建設され、30年が経過し、老朽化が著しいため、昨年、移転新築する計画が出され、このたび、新しい園舎の起工式が行われました。

新園舎は、現在の保育園の約200m南側の「五湖の郷」の隣に建設され、0歳児も受入可能となるようミルク作りや容器消毒が行える調乳室や専用のベッドやトイレが備えられた乳児室が整備されることになっています。

定員は45名で、木造平屋建て、総工費は約1億5千万円。社会福祉法人西田福祉会が町などの補助を受け建設し、来年3月の開園を目指します。

## 鉄道新線、今何をすべきか

琵琶湖若狭湾快速鉄道建設促進期成同盟会総会（7/18）

近江今津駅から上中駅までの約19.8kmを結ぶ新しい鉄道実現の機運を高めるため、期成同盟会の総会がパレア若狭で開催されました。

総会では、地元選出国会議員や同盟会役員の小浜市長、若狭町長、高島市長らが出席のもと小浜市、若狭町、高島市をはじめ、県内外から約400名の住民が結集し、「沿線市町関係団体が連携強化し、一体となって取り組むこと」、「鉄道事業化への本格的な取組を進めるよう福井県、滋賀県に要望すること」を決議しました。

## 友好の和40年

第40回吹田市・若狭町子ども会リーダー交歓会（7/25～27）

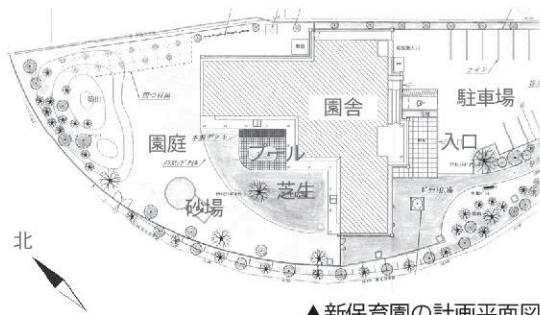
万博で結ばれた友情の和を一層ひろめ、互いのまちの友好と親善をはかる交歓会が、両市町からそれぞれ32名の小学5、6年生が集まり2泊3日の日程で行われました。

初日、児童たちは三方公民館に集まり、歓迎会とグループタイムが行われ、野木小6年生の伊藤剛樹君が、「若狭町の自然とあもてなしを味わい、海水浴や海洋スポーツを楽しんでください」とあいさつ。その後、みんなが農楽舎で、竹で器と箸をつくり、流しそうめんを楽しみました。

2日目は、食見海岸でカヌー・ローボート体験を楽しみ、はじめて会った吹田市の子どもたちとすっかりうちとけ、友好を深めた様子でした。



起工式での刈初



▲新保育園の計画平面図



▲総会であいさつする森下町長



▲児童代表あいさつ

竹の器・箸づくり

## 米粉であつさり料理！

みそみ小キッズキッチン米粉料理教室（7/27）

お米をたくさん食べるきっかけとなるよう米粉を使った料理教室がみそみ小学校で行われました。

この日参加したのは、6年生25人。町内の農業生産法人氣ごころ屋で製粉された米粉を使って料理に挑戦しました。

材料とつくり方の説明を受けたあと、6班に分かれて、「米粉で作るあつさり和風カレー」「米粉団子入りフルーツポンチ」などを作りました。

児童たちは、「たべやすくおいしい」「なめらかな食感」と話し、自分たちで調理した米粉料理をおなかいっぱい食べていました。



▲日本一の給食めざし、料理人と二人三脚で調理する児童

## 若狭自慢料理 新登場！

プライドメニュー試作会・最終審査会（8/7）

地元の食材を使った若狭びとがこだわる自慢の名物料理を開発し、観光資源としての食の魅力を全国にPRする「プライドメニュープロジェクト」の試作会と最終審査会が美方高校で開かれました。

この日は、民宿若手料理人の「サフラのあぶり寿司梅風味」「若狭牛のあんきもワケギ包み」、わかさ東商工会の「あきん丼」、食生活改善推進員の「縄文にぎりめし」、民宿女将の「梅酒と梅ジャムのガトー」など若狭の食材をふんだんに盛り込んだ創作料理51品が登場。

食フェアのアドバイザー村田吉弘氏、オテル・ドゥ・ミクニの三國清三氏ら5人が若手料理人にアドバイスしたあと、優秀作品を選考しました。

アドバイスを受けた若手料理人は「サフラを梅酢でシメるなど改良して民宿で出したい」としていました。

また、これらの料理や選考結果は、9月21日の若狭路もてなし食フェアでパネル展示され、後日レシピが公開されることになっています。

## 日本一の給食をつくろう！

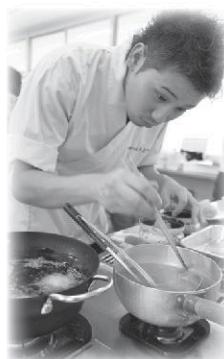
日本一の給食をつくろうコンテストの試作会（8/6）

小学生が自分たちの食べる給食を創り出す「日本一の給食をつくろうコンテスト」の試作会が美方高校で開かれました。

このコンテストは町内外の小学生から食べてみたい給食のアイデアを募集。320作品の応募があり、京都の料亭「菊乃井」御主人村田吉弘氏が5作品を書類選考。若狭町から4人、高槻市から1人の児童の作品が選ばれ、作品を発案した小学生5人と日本料理アカデミーの料理人5人がアイデアとレシピを持ち寄り、お互いに意見を出し合いながら一緒に試作しました。

メニューは、「こんにゃくの梅肉焼き」「うなぎちゃんの五湖バーガー」「へしこのライスコロッケ」「すきやきチャーハン」「梨のジュース」「一寸ソラマメのくずゼリー」など若狭町の食材をふんだんに盛り込んだアイデアあふれるメニューが登場。

9月21日の若狭路もてなし食フェアで大賞が決定し、10月以降、町内の小学校の給食に提供されるよう計画されています。



◀創作料理の仕上げにかかる若手料理人



▼村田氏と三國氏のアドバイスを受ける若手料理人

町並み保存地区  
熊川宿の取り組みから

今年五月、若狭町長として就任させていただき、私が政治信条として掲げましたのが、「対話と実行」であります。

その取り組みの一例として「熊川宿」のまちづくりがあります。

熊川の町並みにつきましては、昭和五十六年に、福井大学工学部の先生や学生の皆さんのご協力により調査が始まりました。

旧上中町時代、教育委員会主事であった私が、この調査の担当をさせていただいたのであります。

調査以来、国の町並み保存地区（重要伝統的建造物群保存地区）となる平成八年まで、実際に十五年の歳月を要したことになります。

従来の文化財は、「指定」という言葉を使いましたが、町

並み保存地区に関しては「選定」という言葉を用います。

これは、住民の主体的な町並み保存への意思が前提にあって、自治体を介して国に選定の申し出をするというまさに、住民同士の対話、住民と行政との対話が根本にあります。

そして、対話による選定までの時間の中では、町並み保存のみではなく、先人から脈々と引き継がれてきた町並みを活かしたまちづくりをしていくという共通の意識が醸成されてきました。

しかし、誰のための、何のための町並み保存なのか。また、現代を生きる住民にとって、町並み保存とは何なのか、ということを考える時間は大変長く困難なことでした。

そうした中で、町並みの中でも景観、来歴において最も重要な建物の一つでありながら極めて老朽化していた逸見勘兵衛家住宅を、「古き町家に新しく住もう」をテーマに修理改修したことは、国の選定

への住民の意識を確立させた事業として、住民同士、住民と行政、また文化財と民家、過去と現代の対話を実現させるものとなったと思っています。

また、民家の修理、道路の地道風の舗装、用水路の石積み護岸、電線の地中化等の景観整備においては、県と町との対話が大きな力となりました。

このように、熊川宿における今日までの数々の取り組みは、長い年月の対話により実現してきたものであると確信しています。

私自身、町長となってから、「住民の皆さんとの対話を大切にしたい」という強く変わらぬ思いから、町長と直接話す機会をもっていただくために「ゆうトーク」という機会を設け、要望があれば、どこへでも出向いて、住民の皆さんとの相互理解を深めさせていただいております。

今後は、合併後の二期目の若狭町長として対話を通じ、更に創造的なまちづくりを進めたいと思っています。

## 広報クイズ

## ■応募方法■

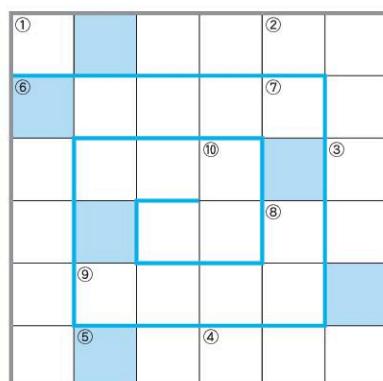
キーワードを解いて、しりとりをしながら右回りにことばを入れてください。6つある青いマスの文字を並びかえると、答えになります。ハガキに答えと広報紙の感想やご意見、住所、氏名を書いて、

「〒919-1393 若狭町役場企画環境課」（住所は省略できます）まで送ってください。E-mailでも受け付けます（kikaku@town.fukui-wakasa.lg.jp）。正解者の中から抽選で5人に図書券が当たります。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。締め切りは9月15日（火）必着です。

## ☆しりとりうずまきクイズ☆

## ◇キーワード◇

- ①おいしい米の代表品種、福井県発祥
- ②避暑・行楽などの保養
- ③本や雑誌を購入でき、従来の券に代わるもの
- ④ピラフなどにホワイトソースをかけ、オーブンで焼いた料理
- ⑤「@」なんと読む？
- ⑥京の着倒れ、大阪の○○○○○
- ⑦左のこと、野球では左翼
- ⑧災害医療での治療優先順序の選別
- ⑨Japan Agricultural Cooperativesの略で、農協のこと
- ⑩唐辛子だけを碎いて細かくした香辛料



## 【ヒント】

9月20, 21と10月17, 18に行われるイベント

## 《答え》

若狭路もてなし○○○○○○ in若狭町

## 広報クイズ8月号の答え『べにさし』

- ①なつやすみ ②みんえい ③いにしえ ④えびす ⑤すろべにあ ⑥あさがお ⑦おれおれさぎ ⑧ぎかい ⑨いしづみ ⑩みさき ⑪きりたんぽ